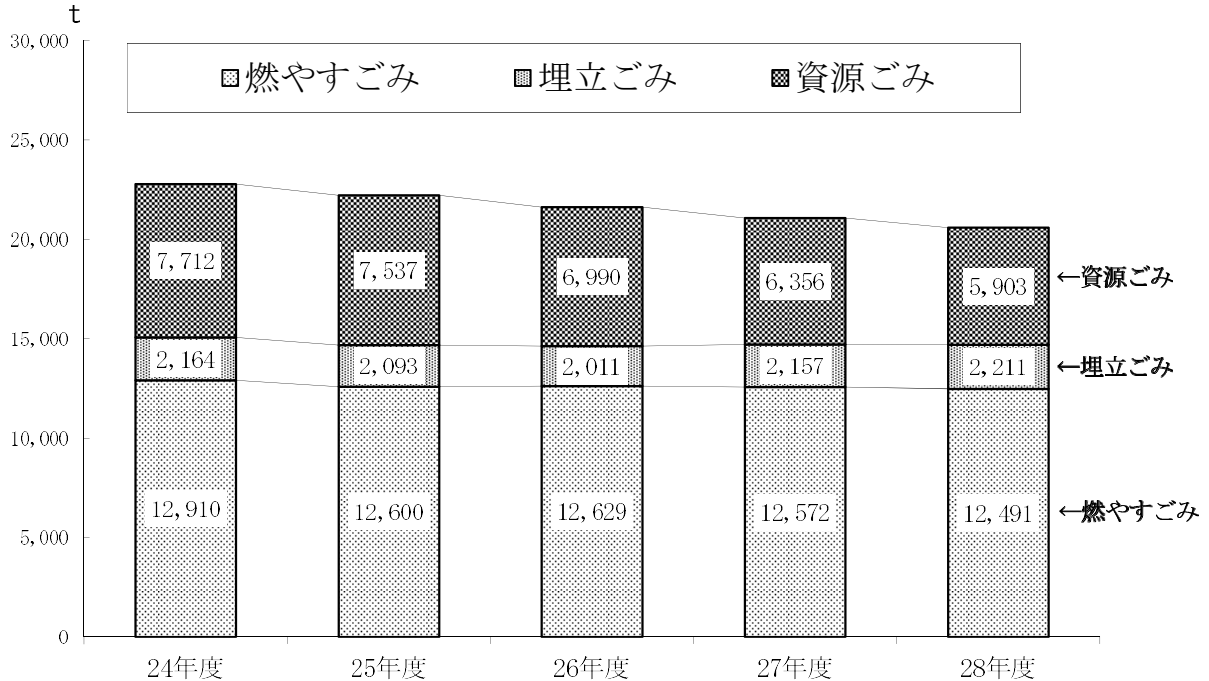


平成28年度 一般廃棄物の排出状況について

H29. 9. 15 総務委員会協議会
資料No. 3

1 人口及びごみの収集量の推移



項目	単位	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	対前年度 比率 %
人口 (9月末時点住民基本台帳人口+外国人登録人口) *	人	106,453	105,611	104,950	104,246	103,624	
ごみの収集量 (家庭系一般廃棄物) (C)	計画値 t/年	21,950	21,529	21,190	20,896	20,562	-
(市が所管するごみ収集量+直接搬入量)	実績値 t/年	22,786	22,230	21,630	21,085	20,605	97.7
処分ごみ (A)	実績値 t/年	15,074	14,693	14,640	14,729	14,702	99.8
燃やすごみ	計画値 t/年	12,135	11,910	11,723	11,538	11,393	-
	実績値 t/年	12,910	12,600	12,629	12,572	12,491	99.4
埋立ごみ	計画値 t/年	2,203	2,106	2,049	2,030	1,936	-
	実績値 t/年	2,164	2,093	2,011	2,157	2,211	102.5
うち火災ごみ	実績値 t/年	18	8	0	120	9	
資源ごみ (B)	計画値 t/年	7,612	7,513	7,418	7,328	7,233	-
	実績値 t/年	7,712	7,537	6,990	6,356	5,903	92.9
紙資源	実績値 t/年	4,804	4,686	4,179	3,599	3,132	87.0
金属資源	実績値 t/年	571	551	511	478	457	95.6
ガラスびん	実績値 t/年	415	401	416	404	391	96.8
ペットボトル	実績値 t/年	78	74	65	53	50	94.3
プラ資源	実績値 t/年	1,639	1,631	1,618	1,648	1,693	102.7
特定ごみ	実績値 t/年	26	22	28	26	32	123.1
生ごみ	実績値 t/年	179	172	173	148	148	100.0
再資源化率 (B/C)	計画値 %	34.7	34.9	35.0	35.1	35.2	-
	実績値 %	33.8	33.9	32.3	30.1	28.6	-
一人あたりごみの収集量 (家庭系一般廃棄物)	実績値 kg/人・年	214.0	210.5	206.1	202.3	198.8	
処分ごみ	実績値 kg/人・年	141.6	139.1	139.5	141.3	141.9	100.4
燃やすごみ	実績値 kg/人・年	121.3	119.3	120.3	120.6	120.5	99.9
埋立ごみ	実績値 kg/人・年	20.3	19.8	19.2	20.7	21.3	102.9
資源ごみ	実績値 kg/人・年	72.4	71.4	66.6	61.0	57.0	93.4

*平成24年度からは住民基本台帳人口に外国人含む
計画値は飯田市一般廃棄物(ごみ)処理計画(平成24年度~28年度)による

2 分析

平成28年度のごみの収集量（家庭系一般廃棄物）の合計は20,605トンで、前年度対比480トン、2.3%の減少となったものの、「飯田市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」（平成24年度～28年度）における計画値20,562トンとの比較では、43トン上回りました。

（1）処分ごみについて

燃やすごみと埋立ごみを合わせた処分ごみの収集量は14,702トンで、前年度対比27トン、0.2%の減少となりました。

平成28年度は、埋立ごみとして行政代執行により処理した大量の不法投棄ごみ等を200トン受け入れたことから全体の収集量が2.5%増加しましたが、この不法投棄ごみ等を除いた場合の処分ごみの収集量は、前年対比146トン、6.8%の減少となります。

燃やすごみの収集量は、平成24年度をピークに、人口減少の影響も受けて横ばいから微減で推移しています。平成28年度は前年対比81トン、0.6%の減少となりました。

埋立ごみの収集量は、平成21年度以降、減少から横ばいの状況が続いてきましたが、平成27年度に火災ごみを120トン受け入れたことで増加に転じ、平成28年度は行政代執行により処理した不法投棄ごみ等を200トン受け入れたことでさらに増加しました。両年度とも特殊な事情を除けば、引き続き横ばいに推移している状況となります。

（2）資源ごみについて

資源ごみの収集量は5,903トンで、前年度対比453トン、7.1%の減少となりました。中でも紙資源の収集量が前年度対比13.0%減少し、最も大きな減少率となりました。また、ペットボトルについても前年度対比5.7%減少し、大幅な減少率となっています。

減少の主な理由は、その利便性から市内の大規模小売店舗などで行われている資源物の店頭回収を多くの市民が利用するようになったためで、平成28年度に新たに大型量販店2店舗での店頭回収が開始された影響が出ています。この傾向はしばらく続くと考えられます。

ガラスびんについては、全国の出荷実績（日本ガラスびん協会の調査）が前年度を下回り、流通・消費されました。当市においてもその状況と同様に収集量は減少となりました。

また、プラ資源（プラスチック製容器包装）の収集量は、多くの商品にプラスチック製容器包装が使用されるようになってきている影響も受けて、ほぼ横ばいから増加で推移しました。旧市内の一部地域において分別収集している生ごみの収集量は、昨年度に大きく減少しましたが、今年度は昨年度並みの排出量となりました。

（3）再資源化率について

資源ごみの重量をごみの収集量総量で除した再資源化率は28.6%と、前年度より1.5ポイント減少しました。昨年度に引き続き、紙資源の収集量の減少が大きく数値に影響しています。

（4）一人あたりごみの収集量について

埋立ごみが前年対比2.9%増加しましたが、行政代執行により処理した大量の不法投棄ごみ等を受け入れた影響です。